経営発展支援事業を活用した先輩農業者のすがた（初期投資【機械や施設を購入】されたみなさん）

【経営発展支援事業】

営農類型 / 採択年度	水田	野菜	果樹	酪農
令和5年（2024年）	京都府　山本　義久 さん			
令和4年（2023年）	山形県　秋場　淳克 さん 茨城県　赤塚　啓希 さん	青森県　匿名希望 さん 岩手県　中村　知宏・愛 さん 宮城県　（株）Punks Farmer 群馬県　匿名希望 さん 埼玉県　萩原　直人 さん 新潟県　本間　浩司 さん 岐阜県　田中　利昌 さん 愛知県　伊藤　和人 さん 三重県　津田　彰史 さん 滋賀県　満嶋　敏行 さん 兵庫県　祐尾　智紗美 さん 奈良県　山本　敏貴 さん 島根県　匿名希望 さん 山口県　匿名希望 さん 徳島県　川嶋　雄一・恵 さん 愛媛県　松本　昌人 さん 高知県　西村　郁弥 さん 福岡県　松本　恭平 さん 佐賀県　匿名希望 さん 長崎県　匿名希望 さん 熊本県　福本　巧 さん 大分県　匿名希望 さん 宮崎県　中島　笑里 さん	山形県　髙橋　善祐・未来 さん 栃木県　中村　麻衣 さん 長野県　山岸 さん 静岡県　稲木　遊野 さん 石川県　大石　衛 さん 和歌山県　畑　篤志 さん 広島県　農事組合法人にじいろファーム	北海道　河合　佑奈・聖 さん

島根県

令和5年度作成

経営発展支援事業

匿名希望さん（29歳）

（営農類型：施設野菜）

新規就農を志した経緯・背景

高校生の時から漠然とではあったが農業に興味を持ち始め、大学は農学部系に進み農業について学んだ。

父の仕事の関係で千葉県から父の出身地である島根県へ移住をした時に町でミニトマトを推奨していることを知った。

栽培方法は施設での島根型養液栽培であり、女性でも就農しやすいと思い親子（母と）での自営就農を決意。

導入した機械・施設等

- 二酸化炭素施用機
- 選果場

（コンテナハウス）

- 動力噴霧器

※パイプハウスはリース

初期投資を行う上で留意したポイント

- 収量向上に直結する機械は就農時に整備するべきと考えた。
- 働きやすさ（期間パートを雇用することもあるので）も重視し、上下水道の引き込み・トイレの設置を行った。

就農後は栽培以外の事に時間をかけることが難しいことや物価高騰の情勢を踏まえ、初期投資の優先順位を考えた。

導入の効果

二酸化炭素施用機の導入効果として、

- 周りの農家と比べて、収量が多かった。

（周りの農家は二酸化炭素施用機を導入していない）

- ミニトマトの実つき色づきがよかった。

就農の状況と今後

就農準備（R3年3月～R4年10月）

- 町内のミニトマト農家の見学。
- 島根県立農林大学校短期養成コースで1年勉強（座学では経営や経理、農業の基礎知識等。研修は町内の農家）。
- 役場の担当部署や県・町の普及員、JAから営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。

現在（就農１年目）

ミニトマト10.8ａ（ハウス3棟）
- サンチェリーピュア（2棟）
- アンジェレ（1棟）

- R5年2月に親子で経営開始。
- 国・県の補助金、青年等就農資金を活用して機械や施設、資材を購入。

今後の目標（就農5年後）

ミニトマト10.8ａ

- 二期作に取り組む。
- 高品質な作物かつ小規模でも生産性の高い農業を目指す。
- 栽培技術の安定と共に販路開拓にも取り組み、労力の軽減や収益向上につなげる。

広島県

令和5年度作成

経営発展支援事業

農事組合法人にじいろファーム

（営農類型：果樹）

新規就農を志した経緯・背景

農業関連の仕事に在職しながら、いつか自分でも農業をやってみたいという気持ちを持っていた。そんなとき、ぶどう部門を廃止したいという農業法人があるという情報を偶然聞いた。その法人の代表に継承したい旨を伝えたところ、「この人にならば」と承諾をうけ、ぶどう部門を継承することができた。

導入した機械・施設等

- 自動草刈り機　１台
- 乗用草刈り機　１台

自動草刈り機

初期投資を行う上で留意したポイント

- 経営開始前に、営農計画や販売計画を作成した。
- 計画を練った上で、必要な機械・施設は積極的に導入した。
- 関係機関に相談し、導入する事業及び機械を決定した。

導入の効果

- ２種の草刈り機を導入し、刈払い機に比べ、作業が楽になった。特に、自動タイプは、遠隔地からスマートフォンで操作でき、作業も充電も自動であるため、他の作業と同時並行できるようになった。その分、管理作業の時間を確保でき、早期の収入確保につながった。
- 今後は、初年度の経験をもとに導入機器を活かした作業体系の効率化を進めるとともに、収益性の高い品種への改植を行い、さらなる経営発展を目指す。

就農の状況と今後

就農準備（R2～R3）

- 農業関連の仕事をしながら、就農を検討しつつ、知識や技術を身につけた。
- 経営継承のため、法人や地権者と協議
- 関係機関と設備投資内容や補助事業についての打合せを行いながら、営農計画を作成。

現在（就農１年目）

ぶどう（５品種）　合計156a
収益性の高い品種割合：18%

- 事業で草刈り機を導入し、効率の良い作業体系を組んだ。
- 法人化。
- 継承した園地は、収益性の低い品種が大半を占めているため、計画的に改植を進めている。

今後の目標（就農5年後）

ぶどう（５品種）　合計156a
収益性の高い品種割合：46%

- 収益性の高い品種の割合を増やす。
- 販路拡大（産直市・ECサイトでの販売など）。
- 従業員を増やし、規模拡大や他品目の導入を目指す。
- 農業所得の目標は、338万円。

山口県

令和5年度作成

経営発展支援事業

匿名希望さん（48歳）

（営農類型：露地野菜）

新規就農を志した経緯・背景

家庭菜園で農業の楽しさに気づき、本格的に農業を行いたいと思い農村部に移住。先輩農家の手伝いの傍ら、地元直売所に農産物を出荷、自分が育てた野菜が売れることに喜びを感じ、本格的に農業に参入を決意。

導入した機械・施設等

- トラクター45ps
- アップカットロータリー

初期投資を行う上で留意したポイント

- 売り先を確保し、初期投資に資金を最大限投入し、作業効率を最優先する。
- 余剰資金が出てきたら設備投資に積極的に振り分ける。
- 最低限１年間は収入がなくてもいいように、手元資金も確保しておく。

導入の効果

- トラクターを導入することにより、適期作業が可能となった。
- アップカットロータリーは、耕耘と畝立てが同時に実施できるので、作業時間が短縮できた。また、排水性や生育ムラの改善にもつながった。
- 導入した機械を有効活用し、規模拡大を目指す。

就農の状況と今後

就農準備（R3～R4）

先輩ねぎ農家のもとで修業
一通りの作業を経験。
畑の片隅を借りて、栽培の練習と販売の経験を積む。その際に、栽培品目の選定を行った。

現在（就農１年目）

- 露地野菜（ネギ）８０a 。
- 直売所を中心に飲食店等販路拡大。
- 葉ねぎ、太ねぎの周年栽培を行っている。

今後の目標（就農５年後）

- 露地野菜（ネギ80a、レタス10a、サツマイモ10a）
- 飲食店、加工用需要を取り込み法人化を行う。
- 地元農業法人と協業して、栽培品種の多様化と販路拡大を図っていく。
- 農業所得目標は２２０万円。

徳島県

令和5年度作成

経営発展支援事業

川嶋 雄一さん・恵さん（38歳・25歳）　（営農類型：施設野菜）

新規就農を志した経緯・背景

東日本大震災や新型コロナウイルスの流行の際、第一次産業の強さや重要性を改めて実感した。農業を始めたいと思った時に海部きゅうり塾の取組を知った。海部きゅうり塾では新規就農者に対するカリキュラムが充実しており実績もあるため、自身も農業で独立したいと考えた。

導入した機械・施設等

・トラクター１７馬力　1台

初期投資を行う上で留意したポイント

トラクターを導入するにあたり、ハウスの規模に合った能力のものを選定するために先輩農家、ＪＡに相談した。

導入の効果

稼働日数は少ないが、必要なときにいつでも気を遣わず使用できるので導入して良かった。トラクターの能力もハウス内を耕運するには十分であり、相談しておいて良かったと感じる。

就農の状況と今後

就農準備（R2～R4）

海部きゅうり塾で技術・知識を取得。

・令和２年に研修開始。
・ＪＡや普及指導員から営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。

現在（就農１年目）

水耕キュウリ１８ａ
（ハウス１棟）

・妻と共同で農業経営を開始。
・反収は「JAかいふ促成きゅうり部会」平均の２０ｔを達成。
・農業所得は１００万円。

今後の目標（就農５年後）

・反収２５ｔを目指す。
・目標所得２００万円。
・作業効率を上げ、仕事とプライベートの両立を図る。

愛媛県

令和5年度作成

経営発展支援事業

松本　昌人 さん（40歳）

（営農類型：施設野菜）

新規就農を志した経緯・背景

フランス料理レストランで料理人として働いているときに農家さんから食材を仕入れたり、直接畑で収穫させてもらっているうちに、料理をつくるより野菜を作りたいという思いが出てくるようになったため。特に思い入れのあるトマトを作りたいと思い就農を決意。妻の実家のある愛媛に移り、研修センターに通い実際に就農に至る。

導入した機械・施設等

・パイプハウス　6連棟

初期投資を行う上で留意したポイント

・計画していた作型は半促成からの夏秋のような長期栽培なので、まず夏の暑さ対策ができるハウスにすること。
・計画時点で設備費用がかなり高額だったため、最低限の設備にしぼり、ゆくゆくは経営状況によって少しずつ増設できるように施工業者と相談しながら初期投資を行った。

導入の効果

今年の夏の暑さは特にひどいものだったが、ハウス内は外気温より１～２度低く保つことができた。

就農の状況と今後

就農準備（R2～3年）

・新規就農センターで基礎的な栽培技術を学ぶ。
・JA指導員と相談しながら営農計画を作成。
・トマト農家やハウス施工業者に栽培及びハウスのデザインについて相談。

現在（就農２年目）

・土耕トマト１０ａ（ハウス６連棟）。
・トマト栽培を中心に、冬場に花木、パセリを栽培。経営の安定化を図る。
・ハウスが空く時期に収益を上げるため、そこで栽培できる作物を模索。

今後の目標（就農１０年後）

・土耕トマト１５ａ。
・トマトを中心に露地野菜も生産し、レストランなど直販に着手。
・格外品は加工をして無駄なく販売できる経営をする。

高知県

令和5年度作成

経営発展支援事業

西村　郁弥 さん（38歳）

（営農類型：施設野菜）

新規就農を志した経緯・背景

肥料関係の企業に勤めていたため、農家との接点も多く、徐々に農業への関心が高まっていった。業務で施肥試験の調査等を経験する中で作物栽培の楽しさも感じ、自分も農業をやってみたいと思うようになった。

導入した機械・施設等

・ニラそぐり機

初期投資を行う上で留意したポイント

・経営開始前から農業経営を行っていた義父とも調整を行い、活用できる農地や農業機械等を準備していき、そこから他に必要な初期投資費用を精査していった。

導入の効果

多くの人役と時間が割かれるそぐり作業の効率化を図ることができ、他の作業に充てられる時間ができた。そのため、今後の規模拡大も具体的に検討することができるようになり、青年等就農計画の目標達成に向け取り組みを進めている。

就農の状況と今後

就農準備（R3～4）

・高知県農業担い手育成センターや研修受入農家から知識や技術を習得。
・JAや普及員から営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。

現在（就農１～２年目）

施設ニラ20ａ（ハウス２棟）

・義父より農地及び中古ハウスを取得し、妻と共同で農業経営を開始。
・農業所得は約70万円。
・農業収入は2,018万円。

今後の目標（就農５年後）

施設ニラ40ａ（ハウス３～４棟）

・農業所得の目標は400万円。
・６年目以降でさらに規模拡大していく（60a程度）ことを目指す。その際には雇用も検討する必要があるため、労務管理なども習得していきたい。

福岡県

令和5年度作成

経営発展支援事業

松本　恭平さん（34歳）

（営農類型：施設野菜）

新規就農を志した経緯・背景

趣味がアウトドアであり、いつかは屋外でできる仕事がしたいと考えていた。民間企業に勤務していたが、コロナ禍での働き方の変化を機に、就農を決意。妻が福岡育ちということや、仕事と趣味を両立できる環境が揃っていたことから、福岡県に移住し、農業大学校等で栽培技術を学び、令和４年から経営開始。

導入した機械・施設等

- トラクター
- 自動谷換気装置
- 炭酸ガス発生装置

初期投資を行う上で留意したポイント

- 農業大学校在学中から、市やJA、普及指導センター等に相談し、積極的に情報収集を行ったことで、中古の空きハウスを借りることができ、初期投資を抑えることができた。
- 将来にわたって農業経営を続けていくために、必要な機械や施設を考え、関係機関に相談して、投資計画や営農計画を十分に練った上で導入した。

導入の効果

- トラクターや自動谷換気装置の導入により、作業の効率化が図られたことで、適期作業の実施につながっている。
- 炭酸ガス発生装置の導入により環境制御に努めることで、栽培期間を通じて収量・品質の高位安定化が図られている。
- 作業の効率化と収量・品質の確保に努めながら、計画的な規模拡大を目指したい。

就農の状況と今後

就農準備（R3～4）

- 地元自治体の研修プログラムで、３品目の栽培を経験し、自分に合う品目を選定。その後農業大学校で１年間研修。
- 研修中から関係機関に相談し、空きハウス等の情報を収集。
- JAや普及センターから営農計画等に関するアドバイスを受け、青年等就農計画を作成。

現在（就農１年目）

施設ナス１２a

- 営農計画の目標を大きく上回る生産量を達成。
- 主にJAの選果場を活用、一部直売所でも販売。
- JAや普及指導員による技術支援体制
- JA青色申告会で経営管理。

今後の目標（就農５年後）

施設ナス２４a

- 収量と品質を確保しつつ、雇用を導入し、面積を拡大して所得向上を目指す。
- 機械、施設の導入や栽培技術の研鑽に努めることで、作業の省力化を図る。
- 農業所得の目標は350万円。

佐賀県

令和5年度作成

経営発展支援事業

匿名希望（夫婦）さん（49歳・44歳）

（営農類型：施設野菜）

新規就農を志した経緯・背景

県外で農業とは異なる仕事をしていたが、いずれは夫婦で自営業を営み、自然豊かな土地で生活したいと思っていた。

そのような中、佐賀市トレーニングファームの存在を知り、体験研修を受け、農業で生計を立てていこうと決意。高齢になっても続けやすく、佐賀市富士町の中山間地で通年栽培が可能なホウレンソウ生産に魅力を感じた。

導入した機械・施設等

・パイプハウス（リース）

初期投資を行う上で留意したポイント

・経営開始前に営農計画を作成。事業活用によるハウスや井戸の整備、また中古ハウスを利活用することで経費削減に努めた。
・機械や施設を導入する前に、地域の先輩農家や市担当者等に相談し、過剰投資をしないよう努めた。

導入の効果

・初期費用を抑えるとともに、研修終了後、スムーズに営農を開始することができた。
・今後も技術向上、安定生産に努め、部会平均以上の収量確保を目指す。

就農の状況と今後

生産者・JA・市・普及センターが連携して農地や施設の取得、補助金活用等について支援！

就農準備・研修（R3.1～R4.12）

・佐賀市トレーニングファームで2年間研修し、ホウレンソウ栽培の基礎や経営ノウハウを習得。
・農地の貸借は生産者・JA・佐賀市が協力し対応、円滑な貸借が実現。

現在（就農２年目）

・研修終了後、ホウレンソウ約23a(作付面積)で農業経営を開始。
・夫婦で役割分担しながら営農。
・研修で学んだことを生かしながら、ハウス管理を実施。

今後の目標（就農５年後）

・ホウレンソウ約33a(作付面積)に規模拡大
・経営分析を行い、収益性を高める。
・規模拡大を行い、農業所得目標400万円を目指す。

長崎県

令和5年度作成

経営発展支援事業

匿名希望さん（36歳）

（営農類型：施設野菜）

新規就農を志した経緯

平成２７年　長野県の農家に勤務し、農業の楽しさ、やりがいを実感。独立・自営就農を検討

令和　３年　技術習得支援研修を受講し、農業経営や栽培管理等の基礎知識を習得

令和　４年　経営開始

導入した機械・施設等

・トラクター（２４馬力）

初期投資を行う上で留意したポイント

・技術習得支援研修先の農家に相談し、将来的な栽培品目、経営規模等を考慮し、トラクターの機種等を選定した。
・初期投資額を抑えるため、技術習得支援研修先の農家、市、JA、普及指導センター等で情報収集を行い、中古ハウスを取得した。

導入の効果

・トラクターの導入により、にがうりの管理作業を適期に実施することが可能となった。
・就農５年後までに単収向上及び規模拡大を進めながら、農業所得２５０万円以上を目指す。

就農の状況と今後

就農準備（R3～R4）

・令和３年に長崎県の技術習得支援研修を受講。
・マンツーマン研修の農家先で、にがうり栽培の基礎を習得。
・市、JA等の支援のもと、青年等就農計画を作成
・研修中は、就農準備資金を活用。

現在（就農１年目）

・中古APハウス１０aを取得（貸借）し、にがうり栽培を開始。
・経営発展支援事業を活用してトラクターを導入。
・にがうり栽培面積１０a
・単収：２ｔ
・農業所得：20万円

今後の目標（就農５年後）

・にがうり栽培面積：２０a（目標）
・単収目標：６ｔ以上
・農業所得目標：２５０万円以上

熊本県

令和5年度作成

経営発展支援事業

福本　巧 さん（27歳）

（営農類型：施設野菜）

新規就農を志した経緯・背景

幼少から祖父が農業をしている姿を見ていて、小学生の頃から就農したい気持ちがあった。農業高校と専門学校で様々な農家の経営を学び、卒業後はイチゴ農園に勤務。新規農場立ち上げに携わるなど、栽培技術から経営管理面に関しても様々な経験を積むことができた。また、販売について、当農園のバックアップによる販路の確保も見込めたことから、地元での就農を決断した。

導入した機械・施設等

- ビニルハウス15a、自動換気
- 暖房機類一式

（暖房機、重油タンク、防油堤）

初期投資を行う上で留意したポイント

- 作物に合った施設の検討。イチゴハウスは台風被害のリスクは低く、必要強度を見積って部材を選択する等、コストダウンを図った。
- 融資制度の利用においては、償還が続けられるかをよく考えて、真に必要な機械、施設の導入に絞り、初期投資を抑えた。
- 補助制度は大変有用だが、事務スケジュールが合わないと就農開始時期が遅れるなどのリスクもある。様々な状況変化に対応できるよう、代案も検討していた。

導入の効果

- 気象条件に影響されづらいハウス設備の導入による安定生産。
- 自動換気の同時整備により、管理の省力化。
- 2棟目のハウス導入が早期に実現したことによる経営発展加速。

就農の状況と今後

技術習得（～R2）

- 農業高校、専門学校で学習。
- イチゴ農園で生産技術を習得。
- 新規農場事業で農場長を務め、生産・労務管理、営業等を経験。

就農準備（R3）

- 就農相談を開始し、サポートチームと連携し、計画を作成。

就農（R4）

イチゴ30a（ハウス2棟）

- 融資と当事業を併用する計画に変更。
- 青年等就農資金で、１棟目のハウス(15a)を早期に建設。
- 当事業で、当初3年目導入予定だった2棟目(15a)を前倒し整備し、経営を拡大。

現在（就農２年目）

イチゴ30a（ハウス2棟）

- 青年等就農計画２年目の目標を達成見込み。

今後の目標（就農５年後）

イチゴ30a（ハウス2棟）

- 青年等就農計画の目標を達成。
- その後の規模拡大、法人化、観光農園経営等も視野に、農地と人材の確保や経営計画の検討を進める。

大分県

令和5年度作成

経営発展支援事業

匿名希望さん （50歳）（※就農時49歳） （営農類型：施設野菜）

新規就農を志した経緯・背景

モノを作る・育てるが好きな事、自然や緑が好きである事、体を使った仕事に憧れていた事、自身の生活リズムに合わせた働き方がしたい事、中年層の未経験者でも新規参入のサポート体制が充実している業種である事など、様々な観点から総合的にみて興味のある業種であったため、就農を決意し、就農コーチのもとで栽培技術を2年間学び、令和5年に経営を開始。

導入した機械・施設等

・トラクター一式

初期投資を行う上で留意したポイント

・経営開始前に計画を作成していたが、将来にわたって安定した経営を行うために、初期投資でしっかりとした生産基盤を整える必要があると考え、必要な機械・施設は積極的に導入した。
・機械・施設を長期間利用することを見据え、整備する内容について経営開始前から就農コーチ等に相談した。

導入の効果

・トラクター一式を導入することにより、安定出荷に繋がる生産基盤を整備することができた。
・今後は、新たな品目も導入しつつ、段階的に規模を拡大し、就農５年後には農業所得283万円を目指す。

就農の状況と今後

就農準備（R3～4）

・就農コーチのもとで技術を取得。
・関係機関から営農計画等に関するアドバイス等を受け、青年等就農計画を作成。
・農業機械の作業免許取得。

現在（就農１年目）

パセリ11a

・事業でハウスを22a新設し、就農。
・妻や両親に手伝ってもらいながら農業経営を開始 。

今後の目標（就農５年後）

パセリ30a、その他10a

・3年目に雇用を導入。
・4年目にハウスを増設するとともにその他品目の栽培に着手。

宮崎県

令和5年度作成

経営発展支援事業

中島　笑里 さん（27歳）

（営農類型：施設野菜）

新規就農を志した経緯・背景

県外で医療関係の職についているときに、偶然、野菜の収穫体験をする機会があり、それをきっかけに農業の魅力と将来性に心惹かれていった。

「せっかく農業を始めるなら、生まれ育った宮崎で、自分が１番好きないちごを育てたい」と思い、就農を決意。

導入した機械・施設等

- 育苗ハウス　１棟
- 育苗ベンチ　６列
- 電照設備、潅水設備
- 防除機　１台

初期投資を行う上で留意したポイント

- 初期投資額を抑えるため、ハウスは第三者継承により取得。
- 必要な機械・施設については、研修先の先輩農業者やJA指導員に相談しながら選定し、投資計画を練った上で導入した。

導入の効果

- ハウスの隣接地に育苗ベンチを整備したことで、作業の省力化、効率化を図ることができ、安定した苗生産につながった。
- 電照設備の導入により、均一した株を生育することができ、安定した品質での収量を確保することができた。

就農の状況と今後

就農準備（R3）

- 宮崎県の認定する研修機関で研修。
- 研修先や県など関係機関からアドバイスを受けながら、青年等就農計画を作成。

現在（就農１年目）

いちご（高設）
おいCベリー　10a

- 経営発展支援事業とあわせて市の補助事業も活用し、農機具等を取得。
- JA部会に所属し、技術指導員や周辺農家から助言を受けながら、独立で営農を開始。

今後の目標（就農5年後）

いちご（高設）
おいCベリー　10a
やよいひめ　17a

- 経営の安定化に向けて、規模拡大・他品種の生産を行う 。
- 適切な温度管理を徹底し、良品質で出荷することにより、所得向上を目指す。